

京大までの散策コース



上：賀茂川の堤防沿いは格好の散策コース
右：川沿いに邸宅が立ち並ぶ



上：賀茂川(左)と高野川(右)の合流地点。ここで合流したのち鴨川になる
下左：京大前との交差点 下右：京阪と叡山電鉄の出町柳駅

下れば賀茂川の川辺。そこを約二・七キロ下ると出町柳。そこから京大までは約一〇分。このウォーキングコースを、通算すれば三〇年間に二〇〇回近く、楽しんで歩いたのが、私にとつての週末のささやかな楽しみだった。私と同じく、賀茂川沿いの散歩を楽しむ人はずいぶんと多く、京都市も川辺の遊歩道の美化に、予算を割いて努めてくれているようだ。

北山大橋から北大路橋までの九〇〇メートルは左手に植物園、右手に賀茂川を見ながら歩く。北大路橋から出雲路橋までの七〇〇メートルは左手に豪邸が立ち並ぶ。裏庭の木戸を出れば賀茂川という実にうらやましい住環境だ。出雲路橋から葵橋までの堤防八〇〇メートルにも邸宅が立ち並ぶ。葵橋から二〇〇メートル先の石段を登り、ほんの少し歩いて高野川の橋を渡れば京阪電鉄と叡山電鉄の

出町柳駅。数一〇メートル南に下がったところが高野川は賀茂川に合流する。

一月から二月にかけての寒い季節になると、小学生や中学生が体育の時間に、北山大橋を出発して、賀茂川の西側の川辺を北大路橋または出雲路橋まで走り、橋を渡って、東側の川辺を折り返す。加茂街道を車で走りながら、私がかく然とするのは、約半数の生徒が歩いていることだ。今の少年少女にとって、受験勉強以外のことで「頑張る」のは無意味としか映らないのだろうか。この国の先々が思いやられる。

私は、二〇一〇年三月三十一日まで京都大学に勤務していた。京都大学助教授に赴任したのが一九六九年七月のことだから、四〇年有余にわたり、京大に勤務したことになる。赴任して間もない七〇年七月から一年間、スタンフォード大学のリサーチ・アソシエイトとして、一年間、かの地で研究さんまの日々を送るといふ幸運に恵まれ、帰国して四年後の一九七五年から三年余り、イリノイ大学客員教授として再度の渡米の機会に恵まれた。

そんなわけで私は、京都に赴任してほとんど一〇年近く、定住地がないまま日米間を行き来していた。七九年末に帰国してのち、そろそろ定住地をと思い家探しを開始した。幼少のころから私は京都住まいのだが、市の南端の伏見区内に限られており、市の北部に住むことに、そこはかたなきあこがれの念を抱いていた。予算制約のもとで、探し当てたついでに住みか北区紫野西泉堂町にあった。

普段は、市バスで約二〇分かけて出町柳、そこから京大まで歩いて一〇分の通勤をしていたのだが、土曜と日曜に大学の研究室で落ち着いて物書きをするために、月に二、三度の割りりで土日出勤していた。そんな折、一時間余りの時間をかけて私は、自宅から大学までの約六キロを歩くことにしていた。

北山通を東に向けて約二キロ歩き、北山大橋を渡って右に折れ、賀茂川の堤防から坂道を



（さわ たかみつ）滋賀大学学長。一九四二年、和歌山県生まれ。東京大学大学院経済学研究所博士課程中退。京都大学経済研究所教授、所長などを経て、二〇一〇年から現職。京都大学名誉教授。専門は計量経済学、環境経済学。著書に「経済学とは何だろうか」「地球温暖化を防ぐ」「グリーン資本主義」など。